

未熟児新生児科

2013年度総入院数は427人(前年比-0.7%)であった。入院の内訳は、在胎週数が未熟で出生体重の小さい超低出生体重児(出生体重1000g未満)が10人(前年度より-12人)、極低出生体重児(出生体重1500g未満)が27名(前年度より-4人)、低出生体重児(出生体重2500g未満)が180名であった。重症新生児仮死や遷延性肺高血圧症、胎便吸引症候群、重症新生児仮死などの出生体重2500g以上の児は247名で総入院数の46.9%であった。

総依頼件数は584件(-17件)であった。入院依頼をお断りしなければならない件数及び当センターの院内他科に入院依頼した件数は157(-14件)となった。

当センターの新生児搬送車による総出動件数は272件(-29件)であり、その内訳は、迎え搬送242件、三角搬送3件、分娩立ち会い58件、back transfer30件であった。

特殊治療としては一酸化窒素吸入療法6件、脳低温療法33件、脳平温療法15件、血液透析3件、人工換気療法222件(入院患児の52.0%)であった。

死亡数は9名で剖検率は66.7%であった。染色体異常などで死亡したのは3名で、それ以外で死亡したのは6名。重症新生児仮死児が1名、先天性代謝疾患2名(OTC欠損症、CPS-1欠損症)、先天性風疹症候群1名、血球貪食症候群1名、両側横隔膜ヘルニア1名であった。

(清水正樹)

スタッフ(2013年在籍)

清水正樹(部長兼科長、日本小児科学会専門医・指導医、日本周産期・新生児学会専門医・指導医臨床研修指導医)

菅野啓一(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

宮林 寛(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

川畑 建(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

櫻井裕子(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)

今西利之(医員、日本小児科学会専門医)

林 至恩(医員) 不破一将(医員)

菅野雅美(常勤的非常勤、日本小児科学会専門医)

杉山洋平(常勤的非常勤) 細井賢二(常勤的非常勤) 溜 雅人(常勤的非常勤)

石川尊士(常勤的非常勤) 相良長俊(常勤的非常勤) 鈴木詩央(常勤的非常勤)

鈴木亮平(常勤的非常勤) 西野智彦(後期研修医) 矢澤里絵子(後期研修医)